



ジェスさんの新しい出発



ジェスさんの新しい活動地域

Anthony Jesudasan (アンソニー・ジェスダサン 通称ジェス)さんは、2010年の国際研修参加者。当時 30 歳スリランカの団体 NAFSO (全国漁民連合) の職員でした。そのジェスさんから昨年 12 月、新しく NGO を立ち上げたと連絡が来ました。

自分の故郷である南部の紅茶プランテーションで活動するとのこと。私には物静かな若者という印象だった彼が、長年勤めた団体を離れ新たな出発するとのこと。経緯や新たな活動への思いを聞いてみました。 職員 林かぐみ

Q: 新しく活動を始める背景は？

私の出身地である南部の紅茶プランテーション地域は、とても貧しいところでした。13歳のときに年下の子どもたちに勉強を教えることを始めました。それが私の社会活動の第一歩です。

2002年にカトリック系 NGO であるカリタスに入り、コミュニティワーカーとして活動しました。同時に、ボランティアとして仏教系団体の若者プログラムにも関わりました。

そして2003年に全国漁民連合に加わり、平和と持続的な開発をめざしてさまざまな団体をつなぎ、全国的なネットワークづくりに力を注ぎました。このような20年以上の経験を基に、出身地の人びとを支援しようと決心しました。団体名は、「プランテーションの人びとの声」(Voices of Plantation People Organization) といいます。

Q: 南部のプランテーションの人びとが置かれている状況は？

プランテーションの労働者は、イギリスの植民地であった約200年前にインドから渡ってきたタミル人です。インド・タミルと呼ばれます。スリランカ中部には大規模な紅茶プランテーションが多いですが、南部では、小規模なところがほとんどで、インド・タミルの人口も多くありません。母語であるタミル語で授業が行われる学校も数少なく、結果教育機会も限られます。同じプランテーション労働者でも取り残されています。

過去30年、政府はプランテーションの人びとに土地を与える約束してきましたが、まだ正式に登録されていないところが数多くあります。

私たちは、土地の所有権を中心的な課題として取り組んでいきます。

土地所有権の問題について現状を調べた調査報告書。

ジェスさん制作の動画もあります

(英語字幕あり・約24分)



経験を積み、新たな出発をきったジェスさんを応援したいと思います。